

# こやのせ

「平成27年度 全国学力・学習状況調査」号  
 平成27年11月25日 (児童数 405名)  
 北九州市立木屋瀬小学校  
 発行者 藤井 英貴

## 平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数・理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。本校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上をめざしています。

### 1 教科に関する調査結果の概要

#### ① 学力調査結果と分析

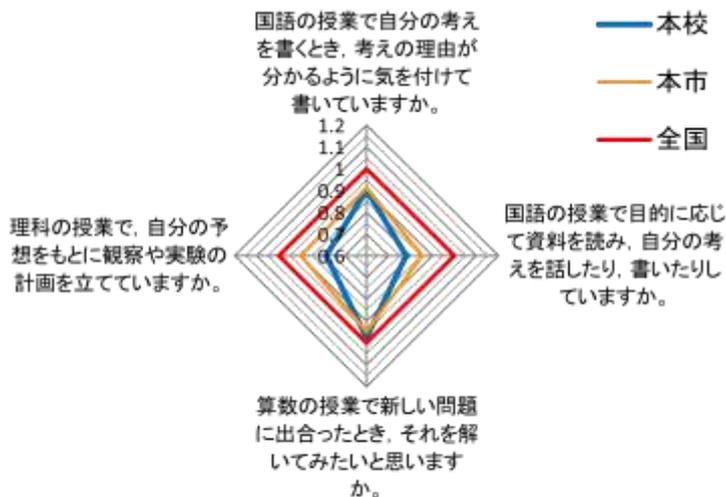
カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	全国平均正答率を下回っている	全国平均正答率を下回っており、差が広がっている。漢字を正しく書いたり、文章の中の主語を捉えたりする基本的な内容の定着に課題がある。
国語B	全国平均正答率を下回っている	全国平均正答率を下回っているが、記述式の問題に対する無解答率は全国に比べ低くなっている。自分の考えを整理しながら簡潔に分かりやすく書く問題に課題がある。
算数A	全国平均正答率を下回っている	全国平均正答率を下回っているが、ほぼ同等といえる。チャレンジタイムやチームティーチングの効果が表れている。図形の性質を問う問題に課題がある。
算数B	全国平均正答率を下回っている	全国平均正答率を下回っているが、ほぼ同等で差も広がっていない。割合の問題やなぜそのように考えたのか根拠を記述する問題に課題がある。
理科	全国平均正答率を下回っている	全国平均正答率との差が前回よりも広がっている。電磁石の働きなどエネルギーに関する問題に無解答率が高く、誤答も多かった。

#### ② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

・国語科の授業で、文章を読んだり書いたりすることに苦手意識をもっている児童は少ないが、目的に応じて資料を読み、考えを話したり、理由を分かりやすく書いたりすることを意識していない児童が多い。

・算数の学習で新しい問題に出会った時、解いてみたいと思う児童の割合が高い。また、問題の解き方をいろいろな方法で書ける児童が増加していることから、全校で算数科学習の学力向上に取り組んでいる成果が見られる。今後は、考えを相手に分かりやすく説明する話合いの時間を充実させていく必要がある。

・理科の勉強が好きという児童は、全国平均を大きく上回っている。しかし、自分の予想を基に観察や実験の計画を立てたり、観察や実験の結果から分かったことを考えたりしている児童の割合は低い。



## 2 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

### ① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

・家で宿題をしている児童の割合は、年々増加しており、「宿題を必ずする。」という習慣は定着している。また、学校の授業の復習をしている児童の割合も、全国平均を上回っている。宿題を含め、家庭学習をしている児童の割合は増加している。

・1時間以上、家庭学習をしている児童の割合は、全国平均を大きく下回っている。今後は、家庭学習の目安の時間、(学年+1)×10分を目標に、家庭学習チャレンジハンドブックを有効に活用、点検するなどして、家庭学習の具体的な取り組み方や計画の立て方などを継続して指導する必要がある。

学校の授業以外に、普段(月曜～金曜)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

	25年度	26年度	27年度
本校	41.7	41.7	39.4
本市	49.6	50.2	48.0
全国	63.2	62.0	62.7

※ 1時間以上勉強している児童の割合

### ② 生活習慣等に関する調査結果と分析

・毎日同じくらいの時刻に起きている児童の割合や毎日朝食を食べている児童の割合は、高くなっている。「早起し、朝食を食べ、遅刻せずに登校する。」という意識は、児童や家庭に定着してきている。しかし、就寝時刻が遅いということが課題である。

・学校に行くのは楽しいと感じている児童や自分には、よいところがあると思っている児童の割合は、年々増加しており、全国の割合を上回っている。間違っても大丈夫という安心感を児童にもたせる支持的な学級風土づくりに取り組んだり、普段の生活や学習で友達のよさに目を向ける活動に取り組んだりしている成果が見られる結果となった。

## 3 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

### ① 教科に関する取組

- 確かな学力向上のための特設時間の実施
- ・朝自習(読み、書き、計算を中心に曜日を決めて)やチャレンジタイム(5校時開始前の10分間の帯取り)で全校一斉に実施。
- ・算数科における各学年の重要単元については、チャレンジタイムにおいて集中的に指導するよう、国庫少人数、児童支援加配、教務、教頭、校長等を動員し、基礎基本の定着を図る。
- ・国語科と算数科の基礎基本問題等をまとめたプリント集を作成し、チャレンジタイムや宿題、隙間時間に活用する。
- 算数科の主題研究を通じた基礎的・基本的な内容の定着
- ・教師が一方向的に説明するのではなく、児童に問い返ししながら発言をつなげ、児童主体の学習になるように努める。
- ・主題研修や若年研修など、学力向上に関する職員研修を定期的実施する。
- 過去問題やアシストシートを活用し、全学年10枚程度、冬休み、春休みの宿題とする。
- 学習ルール(授業5則)の定着
- 授業の中で自分の考えを書く時間を必ず設ける。また、話し合いの時には、考えを整理して説明したり、説明する順序を考えたりするなど、児童の発言が、相手に分かりやすく伝えることを意識したものになるような授業づくりを行う。

### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 木屋瀬中学校区小中一貫連携教育で作成した「家庭学習の手引き」(家庭学習の約束、家庭学習の目安時間等)の活用
- 「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、家庭学習の方法を指導する。また、定期的な点検の実施
- 「家庭学習マイスター賞」への応募の啓発
- 学年に応じた「自学ノート」の活用
- 家庭学習のがんばりを、児童や保護者に紹介する場の設定
- 全国学力・学習状況調査の結果や課題を学級懇談会や各種便りで説明し、家庭と連携し協力体制を整える。また、生活実態アンケートの結果や本校児童の課題に対する取組を保護者に説明し、家庭と学校が協力して子どもを育てる体制を整える。
- 携帯電話やスマートフォンなどによるSNSトラブルや学力に与える影響について学校だより等で伝える。また、マナーキッズ講座や規範教育を実施する。